

## 2 横浜市総合リハビリテーションセンター知的障害児通園施設

施設長	今吉良子
定員	30人

就学前の発達に障害のある児童を対象に、親子通園を中心とした形態をとおして集団及び個別による生活全般への療育を行いました。保護者の方には、児童の状態を理解して適切に関わることができるよう、保護者教室等により支援を行いました。また、児童が併用している保育所や幼稚園と連携を図り、より効果的に療育を進めました。

今年度は、昨年度から継続した26人の児童に加えて新たに25人の児童が入園し、29人が退園（年度途中退園1人含む）しました。年間の通園実児童数は51人（昨年度51人）でした。

また、昨年度に引き続き利用児の保護者を対象に、提供するサービスに関する満足度について事業団小児部門で統一した項目によりアンケート調査を実施しました。

主な事業内容は次のとおりです。

### (1) 療育目標

児童の人権を尊重し、一人ひとりの児童が現在及び将来ともにその持てる力を十分に発揮した生活が営めるように総合的な支援を行いました。

療育の目標は、次のとおりです。

- ア 健康な体づくり
- イ 基本的な生活習慣の育成
- ウ 運動機能の向上
- エ 感覚・認知機能の向上
- オ コミュニケーション能力の向上
- カ 社会性の育成
- キ 問題となる行動の軽減
- ク 保護者への支援

### (2) 療育内容

原則として親子通園の形態により、年齢・発達段階等を考慮した療育を家庭との連携を密にして行いました。また、家庭生活や地域生活における個別のニーズに対応するため、一人年間4回の個別療育プログラムを行いました。

ア 集団活動・個別支援

- (ア) 発達精神科医師、児童指導員・保育士、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士からなる療育チームでの対応によって、適切な評価のもとに児童の障害を総合的に把握し、より効果的な療育プログラムによる支援を行いました。また、保護者からの医療面での相談に直接医療スタッフが対応するなど、療育の一層の充実を図りました。

- (イ) 児童の情緒の安定と療育への良好な参加を促すため、療育の場面設定の中で余分

な刺激を整理し、一日のプログラムの流れを一定に保ち、場面や時間の構造化をとり入れるなど療育プログラムの体系化を図りました。

(ウ) 個別評価による認知・感覚機能面での課題を明らかにし、種々の教材や素材を利用するなどして児童の状況に応じた個別支援の充実を図りました。

#### イ 生活面への支援

食事・排泄・着替え・持ち物の整理等基本的な生活習慣の中で、個別に支援の手順を組み立て繰り返し実施することにより適応行動を増やし、自立について一定の成果をもたらすことができました。

#### ウ 保護者への支援

保護者の療育場面への参加、家庭・地域生活支援プログラム（保護者教室・家族教室、家庭訪問等）を通じて、家庭生活と療育に一貫性を持たせ療育効果が家庭でも発揮できるよう支援しました。

#### エ 行事

主な行事の実施状況は、次のとおりです。

開催月	内 容
4月 6月・2月	入園式・始業式 家族教室 日曜日に通常療育を行い、平日に療育に参加しにくい家族（主に父親）のために日曜日に通常療育を行い、児童のことや療育及び通園についての理解を図りました。
12月 3月	おたのしみ会 卒園式 親子ともに楽しめる交流の場として開催しました。 ※その他、毎月の誕生会、クラス毎に園外プログラムを実施しました。

#### オ 卒園児に対する支援

卒園児が通う学校等との連絡会を持ち、児童の状況を把握し個々の児童に合わせた助言等を行いました。

#### カ 保育所・幼稚園との連携

地域の保育所・幼稚園に対し、次のような事業をとおして地域支援を行いました。

(ア) 保育所・幼稚園を併用する児の園の担任職員に対して、「療育参観プログラム」を実施しました。計 18 園（36 人）が参加しました。

(イ) 横浜市内保育所における障害児受入れに伴い、港北区内 10 保育所の保育士 10 人に対して、延べ 10 回の実地研修を行いました。

(ウ) 横浜市幼稚園協会港北支部の研修会において「関わりの難しい子どもの理解と対応について」というテーマで講師を務めました。

(エ) 横浜市内の保育所の職員を対象に行う障害児保育講座において、「ここがポイント! 自閉症の子ども保育」というテーマで講師を務めました。

#### キ 療育研究会

横浜市内療育機関における中核機能の一環として、事業団職員を含む市内の関係機

関職員に研修の機会を提供するとともに、施設職員の療育技術水準の向上を図ることを目的として療育研究会を実施しました。

また、療育研究会の拡大版として、年1回、市内の地域療育センタースタッフが一堂に会する療育研究大会を実施しました。

(人)

回	実施日	表 題	講 師	参加者数	
				事業 団 職員	市 内 関 係 機 関
1	6月17日 (木)	聴覚障害児者の聞こえとコミュニケーションについてー幼児期から成人期までー	リハセンター 難聴幼児課長 佐竹恒夫	14	22
2	7月20日 (火)	【横浜市療育研究大会】 発達障害児をかかえる保護者への支援の在り方を考える	厚生労働省 発達障害対策専門官 日詰正文	242	206
3	10月21日 (木)	LD等、学びの異なる子どもへの多層指導モデルMIM(ミム)ー通常の学級における読みの流暢性に関する指導の実践からー	独立行政法人 国立特別支援教育総合 研究所 主任研究員 海津亜希子	21	6
4	11月18日 (木)	知的障害を伴う学齢児への長期的支援	西部地域療育センター 言語聴覚士 五味晃子	15	5
5	11月18日 (木)	発達障害者の就労支援における現状と課題	大妻女子大学 人間関係学部人間福祉 科教授 小川 浩	48	0

### (3) 利用実績

#### ア 月別在籍児数

(人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合 計
初日 在籍児数	51	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	※50.1
新規入所児数	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
退所児数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28	29

※は、初日平均在籍児数です。

イ 在籍児の状況

(ア) 入園経路

a センターへの来所経路 (人)

区福祉保健センター	47
医療機関	2
直接来所	0
その他 (幼稚園、児相、他機関など)	2
合 計	51

b 来所から通園までの経路 (人)

外来療育グループ	51
合 計	51

(イ) 区別内訳 (人)

港 北 区	48
その他	3
合 計	51

(ウ) 年齢別内訳 (人)

3 歳 児	6
4 歳 児	19
5 歳 児	26
合 計	51
平均年齢	4.4 歳

(エ) 障害別内訳 (人)

自 閉 症	39
広汎性発達障害	6
アスペルガー障害	5
精神運動発達遅滞	1
合 計	51

ウ 退園児の進路状況 (人)

小学校 (普通学級)	3
小学校 (個別支援学級)	18
特別支援学校	5
児童デイサービス	1
転居に伴う他市通園施設	1
その他	1
合 計	29